

06

Sustainability Strategy

サステナビリティ戦略

- P.41 CSO メッセージ
- P.43 サステナビリティ経営の推進
- P.44 マテリアリティ定量 KPI 一覧

次元上昇による企業価値向上



本業のど真ん中で、 異能としての サステナビリティを磨く

CSO*

小畑 茂生

*Chief Strategy Officer

異能としてのサステナビリティ

豊田通商グループは、これまで培ってきた価値観を基盤に、「異能の総合商社」として他社が踏み込まない領域に挑み、独自の価値を創出してきました。その根底にあるのが、豊田通商DNA(「Humanity」「Gembality」「Beyond」)です。とりわけ「Gembality」は、現場で課題を捉え、やり抜く、当社ならではの価値観であり、当社の取り組みの原点となっています。

こうした価値観の下、**サステナビリティを制約ではなく事業機会と捉え、本業の中核として取り組んでいます。**資源循環や再生可能エネルギーの取り組みは、「もうこれ以上、地球を掘らなくてもよい」という世界観の実現にもつながり、競争優位の源泉となっています。



グリーンメタルズ北海道(株)の工場現場訪問時の様子

地球課題の解決を経済価値に変える事業

当社グループは、サステナビリティを“経営そのもの”と位置付け、事業を通じて地球課題の解決と企業価値向上の両立を図っています。

アフリカをはじめとするゴンドワナ経済圏では、現場に根差した「Gembality」を発揮し、地球課題に向き合いながら新たな事業を創出しています。サーキュラーエコノミー分野では、資源循環そのものが事業価値となり、事業の成長が環境価値の向上に直結しています。再生可能エネルギーやヘルスケアにおいても、社会に不可欠な機能を担いながら、持続的な成長を実現しています。得意領域をさらに伸ばしつつ、外部パートナーと強みを掛け合わせることで、**地球課題の解決を、事業の創出・成長を通じて経済価値へと転換していきます。**



エジプトの風力発電所の現場訪問時の様子

CSO メッセージ

マテリアリティで戦略と実行をつなぐ

中期経営計画(2026年3月期～2028年3月期)において、サステナビリティ戦略は企業価値向上に向けた重要戦略の一つです。「ネットゼロ」「ネイチャーポジティブ」「ヒト・地域との共生」の3つを軸とし、個人や組織の「異能」を活かしながら、地球規模の課題を、事業を通じて解決していきます。

マテリアリティは、当社がどの課題に向き合い、どのような価値を創出するかを示す指針です。事業環境の変化を踏まえ、継続的に見直ししながら、経営戦略と実行をつないでいきます。

サステナビリティ経営の次元上昇

当社が目指すのは、サステナビリティ経営の次元上昇です。サステナビリティを方針や開示にとどめず、事業や現場に内在するものとして、課題解決と企業価値向上をより強く結び付けていきます。とりわけ、当社の環境に対する取り組みは、サステナビリティ経営の中でも、「ネットゼロ」「ネイチャーポジティブ」「ヒト・地域との共生」を推進し、地球課題を事業を通じて解決する上で大きな意義を持ちます。

本CSOメッセージの冒頭でも申し上げたことの中で、特にお伝えたいことがあります。当社にとって**環境の取り組みは、慈善活動でも義務でもありません**。本業のど真ん中であり、当社グループの持続的成長はもちろんのこと、お客さまのため、サプライヤーのため、より良い地球のため、**そして未来の子供たちのためになる事業機会である**ということです。当社グループ「7万人の大旅団」が一丸となって、お客さま、サプライヤー、多くのステークホルダーと対話をしながら機会の拡大に向けた取り組みを推進していきます。また、機会には同時に、適切に対応すべきリスクも内在します。リスクをコントロールし、機会を確実に捉えることで持続的な成長につなげていきます。

企業価値向上の源泉として磨き続ける

社内外への発信や対話を通じて、当社の取り組みへの理解と信頼を高めていくことにも努めていきます。ステークホルダーとの対話から得られた示唆を戦略に反映し、取り組みを進化させます。今後も、サステナビリティを企業価値向上の源泉として磨き続け、当社グループならではの成長を実現していき、そしてCSOとして、**サステナビリティと事業の一体化をさらに進め、現場から生まれる変革を的確に捉え、成長戦略として具現化**していきます。



南アフリカでの金属スクラップ事業の現場訪問時の様子

① アフリカにおける医療アクセス拡充の取り組み

アフリカで事業を展開するCFAO社では、アフリカ全域における地球課題の解決と経済的利益向上の両立を目指す一環として、信頼できる医療へのアクセス拡充に取り組んでいます。

カメルーンのンデレレに暮らす人々にとって、医療は決して身近ではありません。CFAO社は移動診療所により、診察や無償の医薬品提供に加え、個々に寄り添うケアを継続的に実施しています。地域の先住民や国内避難民を含む800人以上に支援を提供し、医療アクセスの格差是正に引き続き取り組みます。



移動診療所での医療提供の様子

② サプライヤーの皆さまと共に

サプライチェーン全体の持続可能な成長を目指し、当社グループではサプライチェーン人権デューデリジェンスを実施しています。現地実査にご協力いただいたサプライヤーからは、「法令に照らした実態確認を通じて作業現場の安全性向上に向けた改善点が明らかとなり、有益な学びとなった」との声が寄せられました。今後もサプライヤーとの連携を強化し、より強固なサプライチェーンの構築に取り組めます。



サプライヤー企業での現地実査の様子

人権デューデリジェンスの詳細はP.87をご覧ください ➡

サステナビリティ経営の推進

推進体制

当社では、各営業本部・極で進めてきたサステナビリティへの取り組みを全社での活動として強力に推進するため、サステナビリティ推進委員会を設置しています。サステナビリティに関する取り組みは、CSOの下、サステナビリティ推進委員会で議論後に、取締役会にて報告する体制としています。また、関連会議体にてサステナビリティに関する個別テーマについての議論を行う他、各営業本部や海外極、コーポレート部門にてサステナビリティ推進委員会で議論・決定した事項等への取り組みを推進しており、全社で実効性のある体制を構築しています。

推進の体制図



Missionを中心とした新しい7つのマテリアリティ

当社は、地球・社会と共に持続的に成長していくための重要課題を、7つのマテリアリティとして新たに整理しました。「未来の子供たちにより良い地球を届ける」というMissionを中心に、当社グループが事業を通じて取り組むべき領域を示しています。これらのマテリアリティを軸に、地球課題の解決に貢献し、持続可能な未来の実現を目指します。



従来の6つのマテリアリティの実績および目標値はP.44-45に記載しています→

マテリアリティ定量 KPI 一覧

本ページでは、従来の6つのマテリアリティに基づく実績および目標値を報告しています。新マテリアリティに基づく KPI 等については、今後設定の上、開示する予定です。

社会課題の解決と会社の成長を両立するマテリアリティ

マテリアリティ	リスクと機会	定量 KPI	実績および目標値		
 交通死傷者ゼロを目指し、安全で快適なモビリティ社会の実現に貢献 主に貢献する SDGs のゴール   	リスク ● 自動車の電動化に伴う既存事業の陳腐化 ● 技術革新の加速による既存事業の陳腐化 ● 環境規制の高まりによるガソリン車の販売規制 機会 ● 自動車の電動化に伴う新たな材料や関連する原料・資源等の需要増加 ● モビリティの変化に応じた新規事業の創出 ● 次世代環境車の販売台数の増加と関連事業創出	交通死傷者ゼロにつながる製品・サービス^{*1}の収益(売上) ^{*1} 車両の整備状況改善による事故削減、衝突防止警報装置、車載用カメラ、自動運転のための電子部品の供給等	2026年3月期実績 3,560 億円	2027年3月期目標 4,610 億円	2028年3月期目標 5,150 億円
 クリーンエネルギーや革新的技術を活用し、自動車／工場・プラント CO₂ を削減することで、脱炭素社会移行に貢献 主に貢献する SDGs のゴール   	リスク ● 再生可能エネルギー事業会社の増加による競争激化 機会 ● 開発途上国における再生可能エネルギー需要の高まり	再生可能エネルギー^{*2} ビジネスの拡大 ^{*2} 再生可能エネルギーには風力発電(洋上風力含む)、太陽光発電、地熱発電、水力発電、木質バイオマス発電を含む 当社持分容量のうちの再生可能エネルギー比率 再生可能エネルギー事業の総発電容量(建設中含む) うち当社持分容量(建設中含む) 再生可能エネルギー取扱量 リチウム生産量 当社グループの世界での電動車^{*3}の販売台数比率 ^{*3} 電動車(ハイブリッド車(HEV)、プラグインハイブリッド車(PHEV)、バッテリー式電気自動車(BEV)、燃料電池自動車(FCEV)) GHG 排出削減 Scope 1, 2 Scope 3 削減貢献量	2026年3月期実績 100%	2027年3月期目標 100%	2028年3月期目標 100%
		2026年3月期実績 6.3GW	2027年3月期目標 7.2GW	2028年3月期目標 8.0GW	
		2026年3月期実績 4.1GW	2027年3月期目標 4.5GW	2028年3月期目標 5.0GW	
		2026年3月期実績 85 億 kWh	2027年3月期目標 95 億 kWh	2028年3月期目標 100 億 kWh	
		2026年3月期実績 32,000t	2027年3月期目標 33,000t	2028年3月期目標 41,000t	
		2025年実績 16%	2026年目標 17%	2028年目標 34%	
		2026年3月期実績 753 千 t-CO₂	2030年目標 50%削減 (2019年実績比)	2050年目標 ネットゼロ	
		2026年3月期実績 1.13 億 t-CO₂	2030年目標 27.5%削減 (2019年実績比)	2050年目標 ネットゼロ	
		2025年実績 0.6 億 t	2030年目標 0.8 億 t	2050年目標 1.5 億 t	

マテリアリティ定量 KPI 一覧

マテリアリティ	リスクと機会	定量 KPI	実績および目標値		
 廃棄物を資源化することで、モノづくりを支え、循環型社会に貢献 主に貢献する SDGs のゴール   	リスク ● 廃棄物に関する新たな規制への対応と、リサイクル品の需要高まりによるリサイクル原材料調達の競争激化 機会 ● 金属、プラスチック、繊維等のリサイクル関連市場の拡大とそれに伴う新たな事業機会の創出	金属分野における資源循環ビジネス^{*1}の取扱量 ^{*1} 鉄・非鉄リサイクル事業	2026年3月期実績 11,900 千t	2027年3月期目標 12,400 千t	2028年3月期目標 14,370 千t
		プラスチックリサイクル取扱量 (株) プラニック(車台数相当) ^{*2} ボデーアンダーカバー用原料として換算 豊通ベットリサイクルシステムズ(株) (ペットボトル本数)	2026年3月期実績 31 万台^{*2}	2027年3月期目標 42 万台	2028年3月期目標 74 万台
 アフリカをはじめとした開発途上国と共に成長し、事業を通じて社会課題の解決に取り組む 主に貢献する SDGs のゴール      	リスク ● 政治・経済の不安定さとそれに伴う通貨等のボラティリティの高さ ● 商習慣や労働文化の地域毎の差異 ● 伝染病の蔓延、未整備な衛生環境 機会 ● 消費の拡大に伴う、自動車関連事業や消費者向けビジネス市場の活性化 ● 産業開発に対応したエネルギーやプラント、インフラ開発関連事業の創出 ● 開発途上国の生活環境の改善・雇用機会の創出を通じた当社事業の拡大の創出	アフリカにおける電動車販売台数	2025年実績 2.6 万台	2026年目標 2.7 万台	2028年目標 9.8 万台
		アフリカにおける医薬品の収益(売上)	2026年3月期実績 3,900 億円	2027年3月期目標 4,200 億円	2028年3月期目標 4,600 億円
		アフリカにおける再生可能エネルギービジネス アフリカにおける再生可能エネルギー事業の総発電容量(建設中含む) うち当社持分容量(建設中含む)	2026年3月期実績 1,013 MW	2027年3月期目標 2,231 MW	2028年3月期目標 2,381 MW
		再生可能エネルギー取扱量(建設中含む)	2026年3月期実績 14 億 kWh	2027年3月期目標 15 億 kWh	2028年3月期目標 20 億 kWh
		アフリカにおける雇用者数	2026年3月期実績 21,400 人	雇用者数の目標は設けませんが、引き続き現地の雇用創出に取り組む	

会社の成長を支える土台となるマテリアリティ

マテリアリティ	主に貢献する SDGs のゴール	定量 KPI	実績および目標値		
 安全とコンプライアンスの遵守をビジネスの入口とし、社会に信頼される組織であり続ける	主に貢献する SDGs のゴール  	休業災害度数率^{*3}*4「ゼロ災害」を目指す ^{*3} 100 万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数 ^{*4} 対象：国内外主要関係会社	2026年3月期実績 0.38	2027年3月期目標 ゼロ	2028年3月期目標 ゼロ
 人権を尊重し、人を育て、活かし、「社会に貢献する人づくり」に積極的に取り組む	主に貢献する SDGs のゴール    	エンゲージメントサーベイにおける肯定回答率 (対象：豊田通商単体) 社員エンゲージメント 社員を活かす環境	2026年3月期実績 72%	2027年3月期目標 維持・伸長	2028年3月期目標 維持・伸長
		女性マネジメント職比率 (対象：豊田通商単体)	2026年3月期実績 70%	2027年3月期目標 維持・伸長	2028年3月期目標 維持・伸長
			2026年3月期実績 9.5%	2031年3月期目標 20%超	—

